

JA全厚連情報



JA秋田厚生連 雄勝中央病院 8月の行事食「七夕絵どうろうまつり」

目 次

- 財務分析の基礎について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEB開催 1

- ・通信員だより

- 中学生の皆さんに医療の魅力をPR（由利組合総合病院） 2

- 行事食の紹介「七夕絵どうろうまつり」（雄勝中央病院） 3

- 新しいユニフォームをショートムービーで公開（JA茨城県厚生連） 4

- 防火・防災訓練を実施いたしました（相模原協同病院） 5

- 事務職員向けインターンシップを開催いたしました（伊勢原協同病院・相模原協同病院） 6

- 2024年度 フレッシュ看護・介護職員研修会を開催しました（JA長野厚生連） 7

- 入職予定者向け看護師国家試験対策講座を開催しました（JA長野厚生連） 9

- 第62回 看護部合同研修会を開催しました（JA静岡厚生連） 10

- 高校生オープンホスピタルを開催しました（松阪中央総合病院） 12

- オープンホスピタルを開催しました（鈴鹿中央総合病院） 14



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 歸山 好尚



財務分析の基礎について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEB開催

本会は9月12日、13日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEBで開催し、15厚生連から58名が参加した。

本研修会は、研修会参加者が将来において、病院・施設の運営及び管理を担う能力をそなえるため、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。講師は有限責任監査法人トーマツP S H C東日本 シニアスタッフの吉村氏とスタッフの田中氏が担当した。

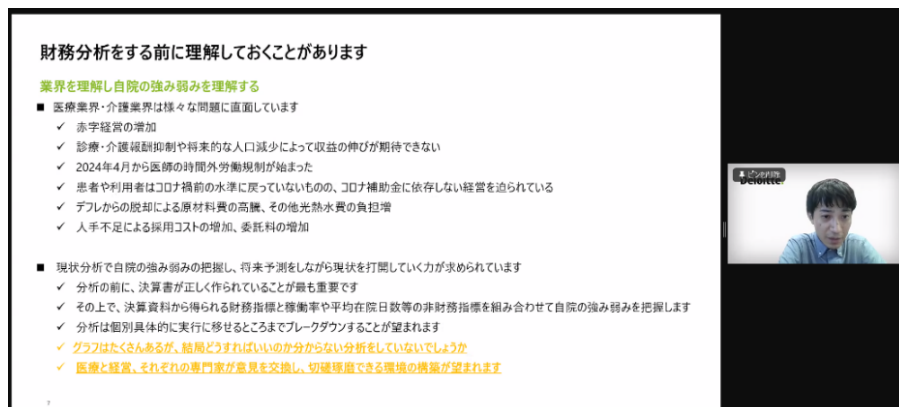
研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第2クールでは、財務会計の基礎をテーマに、①財務分析の前提と内部統制、②財務分析の基礎、③経営指標の基礎、④財務分析・経営指標の復習、及び⑤財務分析の活用基礎演習について研修を行った。

初日は、財務分析の基礎を中心に、正しい決算書を作成するためには内部統制が必要不可欠であることを学び、経営指標の計算方法及び指標の読み取り方について演習を行った。

2日目は、1日目の復習の後グループに分かれて経営指標を計算し、そこから考えられる企業の状況についてディスカッションを行い、各グループより報告を行った。

参加者からは、「財務分析の前提として、内部統制が不可欠であることを知ることができました」「経営上の真の課題を見つけるためには、様々な指標を細かく見ていく必要があるということがよくわかりました」等の感想が寄せられた。

次回（基礎編第3クール）は、管理会計の基礎をテーマに、11月14日、15日の開催を予定している。



財務分析をする前に理解しておくことがあります

業界を理解し自院の強み弱みを理解する

- 医療業界・介護業界は様々な問題に直面しています
 - ✓ 赤字経営の増加
 - ✓ 診療・介護報酬抑制や将来的な人口減少によって収益の伸びが期待できない
 - ✓ 2024年4月から医師の時間外労働規制が始まった
 - ✓ 患者や利用者はコロナ禍前の水準に戻っていないものの、コロナ補助金に依存しない経営を迫られている
 - ✓ デフレからの脱却による原材料費の高騰、その他光熱水費の負担増
 - ✓ 人手不足による採用コストの増加、委託料の増加
- 現状分析で自院の強み弱みの把握し、将来予測をしながら現状を打開していく力が求められています
 - ✓ 分析の前に、決算書が正しく作られていることが最も重要です
 - ✓ その上で、決算資料から得られる財務指標と稼働率や平均在院日数等の非財務指標を組み合わせて自院の強み弱みを把握します
 - ✓ 分析は個別具体的に実行に移せるところまでブレークダウンすることが望まれます
 - ✓ クラフはたくさんあるが、結局どうすればいいのかわからない分析をしていないでしょうか
 - ✓ 医療と経営、それぞれの専門家が意見を交換し、切磋琢磨できる環境の構築が望まれます

研修のようす

通信員だより

中学生の皆さんに医療の魅力をPR

(JA秋田厚生連・由利組合総合病院)

由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）は、7月18日、ナイスアリーナで開催された「中学生と管内企業のふれあいPR事業 in 由利本荘市」に参加しました。このイベントは、管内の中学生に地元企業の仕事内容や魅力を幅広く知ってもらう機会を設けることで、将来の進路選択について考えてもらう契機にするとともに、地元への愛着や興味・関心を一層高めてもらうことを目的に開催されています。

当日は、由利本荘市内の中学校10校の2年生約530名と、製造業、建設業、医療福祉など管内の企業50社が参加し、当院からも、看護師2名、事務職員1名が出向き、地域における当院の役割、病院で働いている様々な職種のこと、医療に関わる仕事のやりがいなど、病院で働くことの魅力についてたっぷりとお話させていただきました。

当院のブースを訪れてくれた生徒さんからは、「病院で働く上で大切なことや大変なことは?」「母が看護師なので興味がある」「ドラマを観て医療に興味を持った」「由利組合の看護師さんが優しかった」など、沢山のお話を聞くことが出来ました。

医療体制が充実していることは、地域の皆様が安全・安心に暮らしていくためにとっても重要なことです。しかし、本県や当地域においては、医師や看護師をはじめとした医療従事者が充足しているとは言えません。中学生の皆さんが就職するのはまだまだ先のことですが、このようなイベントをきっかけにして、医療の道へ進むことを目指す若者が一人でも増えることを期待しています。



イベントの様子

(淡路明美通信員)

行事食の紹介「七夕絵どうろうまつり」

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

入院中の食事は医療の一環として提供されており、治療・回復、および食生活の改善を目的とします。秋田県厚生連では、献立や調理業務がマニュアル化されており、どの病院においても栄養管理された標準的な給食が提供できるように『秋田県厚生連統一献立』を実施しています。

また、各病院独自で工夫した行事食の提供も行っており、行事食には旬の食材が多く使われ、健康で心豊かに過ごすための知恵や願いが込められています。

雄勝中央病院(小松田敦病院長)の8月の行事食は「七夕絵どうろうまつり」です。湯沢の七夕絵どうろうまつりは、秋田藩佐竹南家にお輿入れされた京都の姫君が、竹に短冊を飾りつけ京都をなつかしんだのが始まりといわれており、お祭りでは浮世絵美人が描かれた大・小百数十基の絵どうろうに灯がともされます。

8月の行事食はこの祭りにちなんで、当院の管理栄養士がこれまで描いた絵どうろうをカードにして添えています。患者さんがベットサイドに飾っていることも多く、「癒し」になっていると感じます。伝統的な行事食には患者さんそれぞれの思い出が詰まっていることもあり、食事への意欲につながってほしいと考えています。

患者さんの一日も早い回復への願いを8月の行事食「七夕絵どうろうまつり」に込めて、今後も地元産の安全安心で美味しい給食、質の高い栄養管理に努めてまいります。



院内大型絵どうろう



絵どうろう行事食

(淡路明美通信員)

新しいユニフォームをショートムービーで公開

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連では、スタッフの1日に密着した動画などYouTube「JAグループ茨城」チャンネルで公開しています。

4月から新しくなった各職種のユニフォームの紹介ということで、今回は初めてとなるショートムービーを作成しました。JAとりで総合医療センターのスタッフ約78名が、新しいユニフォーム姿で部署のシンボリックなポーズをとり、そのシーンを一連にした動画となっています。スタッフからは、「手軽に見てもらい、同センターや厚生連に親しみを持ってもらいたい」との声が上がっています。

今後も活動を展開して、新たな動画を発信していきたいと思えます。

<YouTube「JAグループ茨城」チャンネル>

<https://www.youtube.com/shorts/CJyy51MEvR8?feature=share>



ショートムービーの1シーン

(酒井一彦通信員)

防火・防災訓練を実施いたしました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

8月26日に、令和6年度第1回防火・防災訓練が行われました。今回は夜間に地震が発生し、3W病棟で火災が発生したという想定で行いました。すぐに災害対策本部が設置され、病棟ではリーダー看護師が積極的に大きな声で指示を出し、初期消火に取り組みました。いつ災害が起こっても混乱しないように、定期的に訓練を行い、防災意識を高めていきます。



防火・防災訓練の様子

(増田佳一通信員)

事務職員向けインターンシップを開催いたしました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院・相模原協同病院)

神奈川県厚生連では、チーム医療を担う事務を体感してもらおうと8月26日に伊勢原協同病院(鎌田修博病院長)、28日に相模原協同病院(渋谷明隆病院長)でそれぞれ、事務職員を希望する学生に向けてインターンシップを開催いたしました。

当日は「神奈川県厚生連の概要」「先輩職員からの業務紹介」「病院見学」「業務体験」などを通じ、神奈川県厚生連の理解を深め、特に「業務体験」では給与計算や診療報酬請求業務、広報業務を実際に行い、病院の事務職の具体的なイメージを掴んでもらいました。

終了後のアンケートでは「先輩職員も同じような不安を持っていたことがわかった」「業務体験を通して医療事務の不可欠性を再認識できた」「働くイメージを掴むことができた」などの感想をいただきました。次年度においても、よりよいインターンシップを開催してまいります。



インターンシップ開催の様子

(増田佳一通信員)

2024年度 フレッシュ看護・介護職員研修会を 開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連は、8月8日にフレッシュ看護・介護職員研修会をJA長野県ビルで開催しました。この研修会は、勤続2～4年目の看護・介護職員を対象とし、日々のコミュニケーションの在り方を学ぶこと、また、これまでの看護・介護について内省し、これからの看護・介護実践に活かすことを目的としています。今年度は、同研修を3回開催（各回30名定員）し、総勢90名が参加します。

午前の部は、清泉女学院短期大学幼児教育科 教授の塚原 成幸先生をお招きし「ユーモアコミュニケーションのすすめ」について学びました。人間関係を豊かにするために欠かすことのできないコミュニケーションの在り方について、楽しいゲームを通じて、自然に笑顔になる関わりの大切さと難しさを体験しました。



研修会の様子

午後の部はファシリテーターが加わり「これまでに印象に残った看護・介護体験」について事前にまとめてきた事例をグループで発表し、リフレクションを行いました。省察とフィードバックによって、より価値ある経験へと広がり、看護・介護のやりがい再確認できました。

最後に「これから看護師として大切にしていきたいこと」をグループでまとめ、発表しました。キーワードとして「コミュニケーション」「笑顔」「寄り添う」「自己研鑽」などが挙がりました。これまでの多彩な経験を言語化し共有・ディスカッションすることで、多くの気づきに繋がり、学びに変わる良い機会となりました。



発表の様子

参加者からは「コミュニケーションの技術について初めて知るようなことがたくさんあり学びになった」「今後の看護に活かせるような意見交換をすることが出来て良かった」「他の方たちの話を通して新たに気づくことがたくさんあり良い学びになった」と有意義な研修であったという声が多く聞かれました。

JA長野厚生連では、これからの担う若い力を、より良い医療につなげていけるよう、全面的にバックアップしていきます。

(山岸愛通信員)

入職予定者向け看護師国家試験対策講座を 開催しました

(JA長野厚生連)

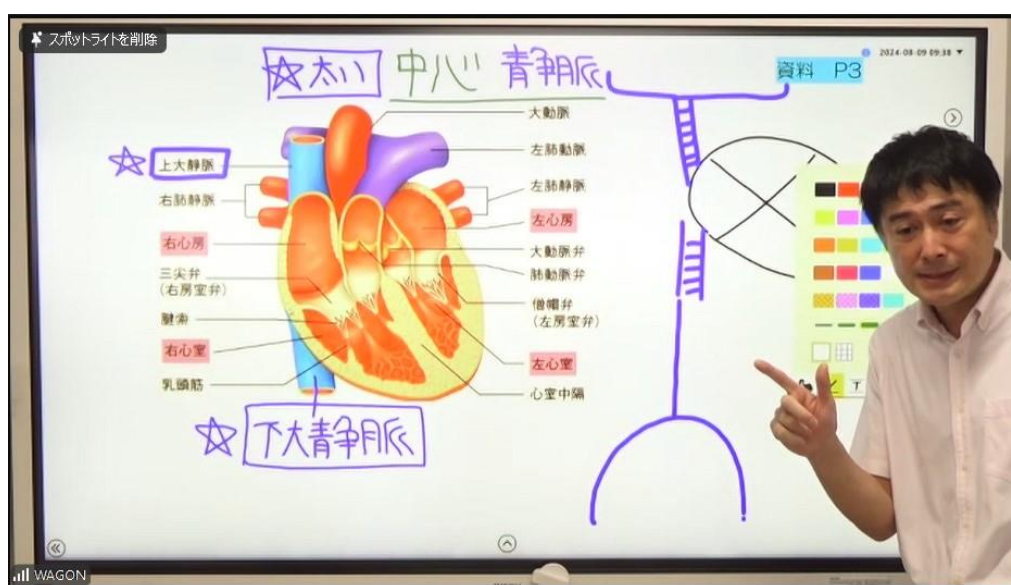
JA長野厚生連は、8月9日に看護師国家試験対策講座をオンライン形式（Zoom）で開催しました。対象者は来年度4月に本会に入職予定の新卒者および奨学金貸与者で、当日は49名の参加がありました。この講座は、国家試験合格に向けた組織的学習支援の一つとして、昨年度より開催しています。

講師は株式会社WAGON（看護師国家試験対策予備校）から小坂 宣靖先生をお招きし、循環器をテーマに国試の出題傾向やその解説について講義いただき理解を深めました。

参加者からは「循環器に対して苦手意識を持っていたが、今回の講義はとてもわかりやすく理解できた」「夏休み中の気持ちを切り替える良い機会になりました」など有意義な時間であったという声が多く聞かれました。

国家試験合格に向けて、より一層の学習への取り組みを期待するとともに、4月から厚生連の仲間として一緒に働けることを楽しみにしています。

JA長野厚生連では、今後も入職予定者及び奨学金貸与者に向けて学習支援を実施していく予定です。



講義の様子

(山岸愛通信員)

第62回 看護部合同研修会を開催しました

(JA静岡厚生連)

JA静岡厚生連では、9月7日に「看護部合同研修会」を農業会館で開催し173名が参加しました。この研修は静岡厚生連の看護職員が「看護部の理念」に基づく職能研鑽と相互交流を図る目的とし、1961年から62年の歴史があります。各事業所から看護職員・看護学生を対象に開催しています。近年は新型コロナウイルス感染症の影響でDVD研修としていましたが、今年は5年ぶりに集合研修での開催となりました。

この研修は、看護研究や看護実践報告の成果を発表し合います。今年は、看護実践報告3題、3年目看護研究2題、看護研究3題、認定看護師実践報告1題の9題の発表がありました。各発表に対し研修参加者から活発な質疑応答がされました。参加者からは、「発表内容は日々の看護実践に活かすことができる」「他病院の職員の看護・介護に対する考えを知る事ができ、自分の看護を振り返る機会となった」という声が多く聞かれました。

この研修を通じて次世代へJA静岡厚生連の理念の浸透や成長を期待しています。引き続き研修会が行われるように取り組んでまいります。



発表の様子



質疑応答の様子



集合写真

(望月俊宏通信員)

高校生オープンホスピタルを開催しました

(JA三重厚生連・松阪中央総合病院)

松阪中央総合病院（田端正己病院長）では、8月20日「令和6年度松阪中央総合病院 高校生オープンホスピタル」を開催し、地域の高校3年生63名の参加がありました。

まず初めに全員でのオリエンテーションを行い、白衣を着用し医師・看護師など全9職種に分かれ医療現場の見学・体験をしました。その後、令和3年度に整備した救急センター、ドクターカーを見学し終了となりました。特に、医師・看護師・臨床工学技士部門で実施した手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」のシミュレーションは大いに盛り上がりを見せ、体験した高校生から「ダヴィンチの操作といった貴重な体験や先生方の働き方など聞いてとても感銘を受けました。医療職に就きたいという思いがさらに強くなり勉強を頑張ろうと思いました」「各職種の仕事内容だけでなく、どのように連携して医療行為を行っているかについても知ることができ、チーム医療の大切さを改めて感じる事が出来ました」などの声が聞かれました。これをきっかけに医療に興味を持ち、近い将来、一緒に働くことができる日を楽しみにしています。



「ダヴィンチ Xi」のシミュレーション体験



ドクターカー見学



医師体験と薬剤師体験

(井澤智子通信員)

オープンホスピタルを開催しました

(JA三重厚生連・鈴鹿中央総合病院)

鈴鹿中央総合病院（北村哲也病院長）では、7月15日医療職に興味がある高校生の方を対象としたオープンホスピタルを開催しました。実際の医療現場を肌で感じてもらうことを目的に、医師・看護師・薬剤師・その他コメディカルの職員が、高校生の方に対して実際の業務の説明や体験、個別相談を行いました。

参加者からは、「丁寧に縫合を教えてください、達成感を味わうことができた」「採血の体験をしたことがなかったのでとても良い経験になり、より看護に関心を持った」「調剤体験が出来てより実感が湧いた」「臨床検査技師や放射線技師のより具体的で専門的な仕事内容について知ることができた」といった体験等に関する声の他、「このオープンホスピタルを通して医師になりたい気持ちがいっそう強まりました」「いつかこの病院で働けるように頑張りたいと思います」といった嬉しい声がありました。

これからも私たち医療職に興味と信頼を持っていただけるよう、積極的にオープンホスピタルや、インターンシップを開催していこうと思います。



北村院長よりお話し



業務の説明・体験の様子

(井澤智子通信員)